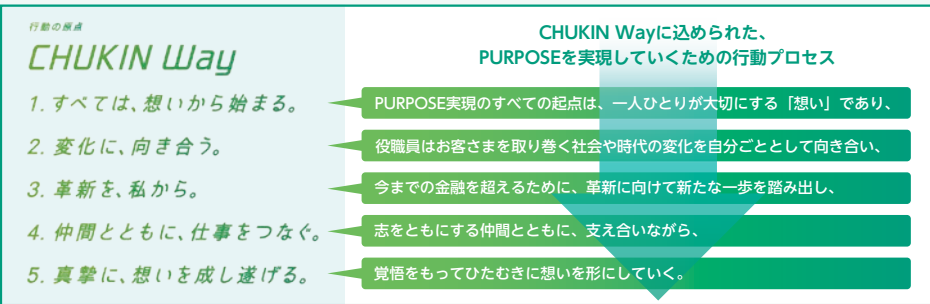


一人ひとりの想いが原点 全員参加で紡ぐ価値観のストーリー

商工中金は、2024年10月に全役職員の行動の原点となる「CHUKIN Way」を策定しました。全役職員が策定に関わったプロセスを振り返るとともに、日常業務における活用、今後に向けた目標などについてDE&I推進部長の船曳をファシリテーターに4人の社員が意見交換を行いました。



■「CHUKIN Way」の第一印象は

船曳 「CHUKIN Way」は3,500名以上の役職員の感動エピソードから、価値観を言語化して策定されました。私たちの仕事の価値を再発見するきっかけにもなると思いますが、皆さんの第一印象はどうか？

栗山 PURPOSEは抽象的で少し遠い存在に感じていましたが、「CHUKIN Way」によって、お客さまへの具体的な行動をイメージしやすくなりました。道しるべとして信じて行動することで、PURPOSEと自分の価値観の重なりである「マイパーパス」の実現にもつながると感じています。

吉田 「CHUKIN Way」が決まり、日々の業務とPURPOSEが結びついた実感があります。以前は、PURPOSEに掲げた理想と日々の業務の現実との間にギャップを感じていました。PURPOSEのような高い山は、いきなり目指すのではなく、日々の業務という低い山で経験を重ね実現したい想いを育んでから、目指すものだと思います。

■策定プロセスで気づいたことは

船曳 「CHUKIN Way」の策定には、全役職員が関わりました。

した。皆さんは、その過程で印象に残っていることはありましたか？

越智 私は策定時のワークショップに参加し、多様な職位・業務・地域の方々と商工中金の価値観について議論しました。環境は異なっている、一人ひとりが誇りをもって仕

事に向き合っていること、そして感動や想いなどの価値観が共通していることに驚きました。

寺田 私はキャリア入社ですが、感動エピソードを通じて、中小企業のお客さまへの強い想いを感じました。融資以外の場面でも伴走する姿勢に、商工中金のDNAがしっかり受け継がれていることを実感しました。

吉田 そうですね。だからこそ、「中小企業のための商工中金」として知恵を絞り、苦しい時もひと踏ん張りしようとする、という考え方が世代や職種を問わず共有されていると感じました。商工中金のDNAとして、お客さま目線で仕事をしている人が圧倒的に多いと思います。

栗山 完成した「CHUKIN Way」は一見してきれいにまとまっています。ただ、その裏で一人ひとりの想いがきちんと詰まっているところや、多くの役職員が自分のためではなく、お客さまや仲間など、誰かのために働いていることが商工中金らしさだと思います。

■「CHUKIN Way」をどう活用していきたいか

吉田 人財育成において、部下に「CHUKIN Way」の理解



を促し、双方向で対話しながら、部下に経験を積ませ、部下の想いを育てることで、感動エピソードのようなPURPOSEを体現する仕事ができるようにサポートしていきたいです。そのためには、上司側も企業理念の理解を深めることが重要だと考えています。

栗山 自分の大切にしている価値観を共有する場が定期的にあると、「CHUKIN Way」の理解が深まり、PURPOSEを自分ごととして捉えられるようになると思います。そうした取り組みを積み重ねることで、「CHUKIN Way」を日常業務に根付かせていきたいです。

越智 私は営業店と本部双方の業務を経験し、それぞれの立場や気持ちを理解していると思っています。PURPOSE実現のために、お客さまに貢献している営業店を支えるためにも、「CHUKIN Way」を活用しながら、チームメンバーに変化していくことの大切さを伝えていきたいです。

寺田 「CHUKIN Way」はすでに多くの役職員の行動に染み込んで、日々活かされていると感じます。キャリア入社の立場から言えば、仲間とともに仕事をつなぎながら、変化に向き合うことの重要性を広めていきたいと思っています。

■「CHUKIN Way」で最も共感する項目は。また、自分にとっての「CHUKIN Way」とは

寺田 「すべては、想いから始まる。」です。私のマイパーパスには変革というキーワードが入っており、想いがあるから

こそ変革できていると考えています。自分にとっての「CHUKIN Way」は、商工中金そのものです。

吉田 「仲間とともに、仕事をつなぐ。」です。人財育成の観点に加えて、仕事をバトンのように受け継いでいく意味もあります。例えば経営改善は息の長い案件が多く、5年後、10年後、担当が変わった後にお客さまの業績が良くなり、花開くことも多いので、「仕事をつなぐ」というフレーズがいいなと思いました。自分にとっての「CHUKIN Way」は、過去の商工中金の良い点と将来をつなぐものというイメージです。

栗山 「真摯に、想いを成し遂げる。」です。商工中金らしさとは、お客さまのために、あきらめずにやり続けるといった愚直さ、泥臭さではないでしょうか。吉田さんは過去と未来をつなぐとおっしゃいましたが、私は「CHUKIN Way」は人と人をつなぐものとイメージしました。共有する価値観として、商工中金の役職員同士や、お客さまと商工中金をつなぐものでもありと思っています。

越智 「変化に、向き合う。」に共感します。入社時から営業店で20年勤務したあと、最初に本部に転勤した時には苦しい時期もありましたが、変化を楽しめるように心がけて自分を変えてきました。「CHUKIN Way」は、いろいろな想いが交差して、その時々自分のやりたいことと重なると感じます。自分が今まで通ってきた「道」やこれから歩みたい「道」こそが「Way」と言えるのかもしれない。

